

葡萄状球菌「ワクチン」療法

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38284

十全會雜誌

第十八卷第二號(第八十五號)

大正二年二月一日發行

原著及實驗

●葡萄狀球菌「ワクチン」療法

笹岡芳名

序

「ワクチン」療法ノ根源ヲ尋ヌルニ遠クゼンナーノ種痘法ニ胚胎シ近クハバステールノ脾脫疽及狂犬病接種法ノ在ルアリ次デコツホノ「ツベルクリン」注射療法出テ、ヨリ諸家ノ研究益々精緻ヲ致シライトガ「オプソニン」示數計量法ヲ案出シテ之ヲ治療上ニ應用スルニ至リテ茲ニ「ワクチン」療法ナルモノ世ニ出デタリ蓋シ「ワクチン」療法トハ細菌性疾患ニ對シテ滅殺セル病原菌ノ一定數ヲ一定量ノ食鹽水中ニ混ジテ乳劑「ワクチーネ」トナシ之ヲ當該患者ニ接種スルヲ謂フナリ例之淋菌「ワクチン」療法ノ如キ米醫バットラ、ロング、チーヤチル、ソーパー等ノ創意ニ據リ獨ノブルツク、我が田中、櫻根兩博士等ノ實驗ニ照シテ漸ク其價値ヲ認メラル、ニ至レルガ如キ是ナリ

而シテ予ガ研究セル葡萄狀球菌「ワクチン」療法ハライト以後ワインスタイン、フーブラー等ノ既ニ先鞭ヲ著ケタルアリト雖モ本邦ニ於テ未ダ其實驗報告ヲ公ニセル者アルヲ聞カザルヲ以テ恩師土肥教授ノ指導ノ下ニ病源ヲ同ウスル數種ノ皮膚疾患ニ對シ之ヲ應用セント企テタリ顧ミルニ淺學非才我業緒ノ以テ恩師ノ指命ニ副フニ足ラザルヲ恥ツルノミ

* * * * *

予ハ明治四十四年九月以來、東京醫科大學皮膚科教室ニ於テ土肥教授ノ指命ニ隨ヒ尋常性瘰癧、癰腫、化膿菌性毛囊炎等ノ患者ノ病竈ヨリ培養シ得タル細菌ヲ以テ數種ノ「ワクチン」ヲ製シテ之ヲ患者ニ應用シタリ其治療成績左ノ如シ

(一)

九月十一日 第一例金子某女ノ顔面ニ於ケル膿疱ヲ五%石炭酸水ヲ以テ輕ク清拭消毒シ滅菌シタル白金線ヲ以テ之ヲ破リ其膿點ヲ普通寒天培養基ニ培ウルコト五管、之ヲ三十七度ノ孵卵器ニ容ル、コト一晝夜(二十四時間)ニシテ十二日之ヲ檢スルニ三管ニ於テハ白色葡萄狀球菌ヲ生ジ二管ニ於テハ黃色葡萄狀球菌ノ發生スルヲ見タリ依テ其黃色葡萄狀球菌培養ヲ採リテ更ニ第二次培養ヲ作ルコト五管、十三日得タル所ノ純培養ヨリ二白金耳ヲ〇九%殺菌食鹽水十立仙米ノ試驗管中ニ落下シ之ヲ八十度ノ温ヲ以テ重湯煎中ニ三十分時滅菌シ後チ冰室中ニ貯フ十四日冰室中ニ納メタル試

驗液ヲ更ニ前回ノ如ク八十度ノ温ヲ以テ重湯煎中ニ三十分時滅菌シ之ヲ「モルモット」ノ腹腔皮下ニ一立仙米ヲ注射シ其經過ヲ見タルニ二十九日(十六日間)ニ至ルモ動物ハ全ク健康ナリキ

(II)

九月十八日 第一例金子某女及ビ第二例室田某男ノ純培養基ヨリ一管ニ二白金耳宛、八管ノ「アイオン」培養基ニ植エ二十三日(四日ヲ經)此培養液ヲ殺菌「コルベン」中ニ採集シ八十度ノ温ヲ保チテ重湯煎中ニ滅菌シタル後豫メ殺菌消毒ヲ施セルライヘル氏濾過器ヲ以テ之ヲ濾過シ「モルモット」ノ腹腔皮下ニ其二分一筒ヲ注射シタルニ十月六日(二週間)ニ至ルモ異常ヲ認メズ

(III)

十一月一日 金子、室田、梶間、増澤、山下、中西、内村、一岡等八名ノ純培養基ニ各殺菌生理的食鹽水五立仙米宛ヲ入レ十分管ノ培養基面ヲ洗ヒ殺菌セル「コルベン」三集メ之ヲ重湯煎中ニ八十度ノ温ヲ以テ滅菌スルコト三十分時、之ヲ豫メ殺菌消毒セル濾過紙ヲ以テ濾過シ之ニ〇・五%ノ割合ニ純石炭酸ヲ加ヘ殺菌消毒セル著色瓶中ニ密閉シテ冰室中ニ貯フ
七日 健康ナル二疋ノ「モルモット」ノ腹部ノ毛ヲ剃リ五%石炭酸及ビ「エーテル」ヲ以テ其皮膚面ヲ清拭シタル後、甲ニハ〇・一立仙米、乙ニハ〇・三立仙米ノ上記「ワクチン」液ヲ腹腔皮下ニ注射ス而シテ十三日マデ一週間ノ經過ヲ見ルニ孰レモ健康ノ状態ヲ維持セリ依テ同日更ニ他ノ「モルモット」一疋ヲ選ビ〇・五立仙米ノ「ワクチン」液ヲ注射セシニ月末三十日ニ至ルモ動物ハ孰レモ健全ナリキ

(IV)

十二月二十一日 金子、室田、梶間、増澤、山下、中西、内村、一岡、蝶谷、清水、中川、春田、村井、芝崎等十四名ノ純培養基ニ各殺菌消毒ヲ施セル〇・五%石炭酸水五立仙米宛ヲ入レテ十分培養基面ヲ洗ヒ濾過紙ヲ以テ之ヲ「コルベン」中ニ濾過採取シタル後八十度ノ温ヲ以テ重湯煎中ニ三十分時滅菌消毒シ然ル後之ヲ冰室中ニ貯フ

明治四十五年一月九日 上記「ワクチン」液ヲ健康「モルモット」二疋ノ腹腔皮下ニ甲ニハ三分一筒、乙ニハ二分一筒ヲ注射シ其經過ヲ觀タルニ十五日(一週間)ニ至ルモ孰レモ健康ナリキ
十九日 更ニ一疋ノ健康「モルモット」ノ腹腔皮下ニ上記「ワクチン」液ノ全筒ヲ注射セシニ體温ニ異常ナク頗ル健全ナリキ

(V) 實驗例

第一例 金子某女 十九歳 明治四十四年皮膚科外來番號六〇六一 明治四十四年九月八日初診

診斷 多發癩腫 病歴 二ヶ月前ヨリ顔面及ビ頭部ニ輕度ノ癢痒ヲ有スル小豆大乃至豌豆大ノ圓錐狀ニ腫起セル發疹數箇ヲ生ジタルヲ以テ某醫ノ診療ヲ受ケタルニ未ダ治スルニ至ラズ七月程前ヨリ頭部及ビ顔面ニ浮腫ヲ來シ發疹ノ一部増大腫起シテ疼痛ヲ覺ユルニ至リ熱感アリ加フルニ食慾亦不振ナリト云フ

十八日 患者體温三十六度八分、自家「ワクチン」二分一筒注射、部位左上脛
上脛
二十日 注射當日夕景ヨリ左上肢一般ニ倦怠感アリ注射局部ノ腫脹及ビ

稍、強キ頭痛ヲ自覺シ此頭痛ハ今朝ニ至リテ消失シ爾他ノ症狀ハ十九日
夜ニ至リテ去ル體溫三十六度八分、二分一筒注射、部位右上臍、(注射部
位ハ左右交換、以下略之) 癰腫ノ急性症狀著シク減退ス、教授ノ命ニヨリ
「クリニック」ニ出ス

二十二日 前回ニ比シ局處及全身症狀微弱ナリ獨リ頭痛ノミハ前回ト同
様ナリ體溫三十六度八分、二分一筒注射、顔面ノ浮腫去リ膿疱殆ド消失
シ疼痛從ツテ去ル

二十五日 注射局部ニ何等ノ症狀ヲ自覺セズ只輕度ノ頭痛ヲ覺エテ今朝
ニ及プト云フ體溫三十六度八分、二分一筒注射、癰腫ノ跡ニ著シキ色素
ノ殘留スルヲ認ム

二十七日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度八分、一筒注射、色素沈著
微カニ消褪ニ傾ク今朝ヨリ新ニ前額ノ左方髮際部ニ二箇ノ米粒大ノ膿疱
ヲ認ム

二十九日 注射後局處ニ腫脹ノ感アリ次テ注射部周圍ニ潮紅ヲ呈シ輕度
ノ壓痛アリ全身症狀ナシ新生膿疱二箇ハ自然吸收サレテ跡ヲ留ムルノ
ミ體溫三十六度七分、一筒注射

十月二日 局處及全身症狀無シ只注射部ニ輕度ノ痒痒ヲ覺ルノミ色素
沈著著シク消褪、體溫三十六度七分、一筒注射

十月十三日 二日以後約ニ反シテ患者來診セズ依テ端書ヲ發シテ招致シタ
ルニ本日來院、依テ教授ノ閱覽ヲ經タルニ全治ノ故ヲ以テ治療ヲ休止シ
寫眞ス

備考 治療延日數 十五日、注射回數 七回(二分ノ一筒四回、一筒三

回)

第二例 室田某 十六歲 學生 外來番號五九六九 明治四十四年九月
十一日初診

診斷 尋常性癩瘡 病歴、四十二年夏頃ヨリト覺テ顔面特ニ兩頰部ニ於
テ紅疹ヲ散生シ中心ニ間々膿點アリ痒痒殆ドナシ諸種ノ塗布藥ヲ用キタ
ルモ一消一長終ニ全治ニ至ラズ近時兩頰部ニ著シク潮紅ヲ來セリ

十八日 體溫三十七度、自家「ワクチン」二分一筒注射、部位左上臍

二十日 注射後一時間ヲ經テ局處ニ稍々強キ腫脹感アリ且ツ夕景ニ至リ
左上肢一般ニ輕度ノ倦怠感アリタルモ體溫ノ上昇ヲ覺エズ翌朝ニ至リ上
記ノ症狀去ル體溫三十七度四分、二分一筒注射、部位右上臍、兩頰部ノ
潮紅微カニ減退ス

二十二日 局處及全身症狀ヲ覺エズ體溫三十七度、二分一筒注射、癩瘡
ノ鮮紅色稍々消褪ス

二十五日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度八分、二分一筒注射

二十七日 注射部ニ輕度ノ局處症狀ヲ呈シタルノミ體溫三十七度三分、
一筒注射

二十九日 注射部ノ症狀稍々甚シカリシガ今朝ニ至リテ略々去ル體溫三十
七度二分、癩瘡ノ治癒甚ダ遅々タルヲ以テ教授ノ命ニ依リ第一例金子女
ノ「ワクチン」一筒注射

十月二日 局處及全身症狀無シ體溫三十七度二分、金子「ワクチン」一筒
注射

四日 注射後一時間ヲ經テ同側ノ上肢一般ニ倦怠感アリ且ツ局部ニ輕度

ノ壓痛アリ翌朝ニ至リテ去ル體溫三十七度、金子「ワクチン」二筒注射、
瘰癧化膿ノ傾キナキモ疹頭少シク潮紅ヲ増セルヤノ感アリ

六日 局處及全身症狀無シ體溫三十七度、金子「ワクチン」二筒注射、一

二瘰癧ノ新生ヲ認ム

九日 體溫三十七度三分、金子「ワクチン」一筒注射

十一日 體溫三十七度一分、金子「ワクチン」二筒注射、瘰癧更ニ新生セ

ザルモ潮紅依然タリ

十三日 體溫三十七度、金子「ワクチン」一筒注射、症狀前ノ如シ

十八日 體溫三十六度九分、再ビ新製自家「ワクチン」二筒注射

二十日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度八分、一筒注射、瘰癧ノ潮紅

稍、減褪

二十三日 體溫三十六度八分、一筒注射

二十五日 體溫三十六度九分、瘰癧ノ治癒遲々タルヲ以テ今後ハ金子菌

室田菌混合「ブイオン、ワクチン」ヲ用キルコトトナシ先ヅ其二分一筒注

射

二十七日 注射後夕景ニ至リ局處ニ稍、強キ發赤腫脹ヲ來シ且ツ熱感ア

リシモ翌朝ニ至リ全ク去ル體溫三十七度二分、二分一筒注射

十一月一日 局處症狀前同ニ比シ弱シ體溫三十七度三分、二分一筒注射、

潮紅著シク消褪ス

六日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度九分、三分二筒注射

十三日 體溫三十六度九分、三分二筒注射

十七日 體溫三十六度九分、三分二筒注射

二十二日 體溫三十七度、八名菌混合「ワクチン」三分一筒注射

二十四日 局處及全身症狀無シ體溫三十七度三分、三分二筒注射、瘰癧

著シク減退ス

二十七日 局處症狀及ビ熱感アリシモ翌朝ニ至リ去ル體溫三十七度一

分、三分二筒注射

瘰癧ノ治癒頗ル佳良ナルモ未ダ全治スルニ至ラズ偶々患者試驗期ニ當リ

一時休止スルノ止ム無キニ至リ明春來院ヲ約ス

明治四十五年一月十七日 來診、瘰癧甚シカラザルモ間、潮紅ヲ呈スル

新鮮ノモノ一二ヲ認ム體溫三十七度、十四名菌「ワクチン」三分一筒注射

十九日 局處及全身症狀無シ平熱、三分一筒注射、瘰癧著シク減却ス

二十二日 平熱、二分一筒注射

二十四日 平熱、二分一筒注射

瘰癧治癒シテ殆ド一筒ヲモ留メズ煩邊ノ潮紅亦全ク去ル教授ノ劉覽ニ供シ

注射ヲ休止ス

備考 治療延日數 六十七日、注射回數 二十六回 自家「ワクチン」二

分一筒四回、一筒二回、金子「ワクチン」一筒八回、同「ブイオン、

ワクチン」二分一筒三回、三分二筒五回、十四名混合「ワクチン」

三分一筒二回、同二分一筒二回

第三例 梶間某 二十一歳 學生 外來番號六七〇九 明治四十四年十

月九日初診

診斷 尋常性瘰癧 病歴 五年前ヨリ顔面ニ帽鍬頭大ノ紅疹ヲ散發シ美

顔水ヲ常用トセリ近時發疹著シク増加シタルヲ以テ診ヲ請フト云フ顔面
ヲ視ルニ兩頰部及ヒ前額ニ麥粒大ノ間々膿疱ヲ有スル紅疹散點シ痒痒ナ
シ

九日 體溫三十六度七分「アイオン、ワクチン」三分一筒注射、部位左上
臍

十一日 注射當日ハ局處及全身症狀ヲ認メザリシモ翌朝ニ至リ注射部ニ
發赤ヲ來シ腫脹疼痛ノ感アリ且ツ頭痛發熱ノ感稍々強カリシヲ以テ一日
臥牀ニ就キタリ今朝ニ至リ上記ノ症狀殆ド去リタルモ尙ホ局處ニ發赤ト

輕微ノ壓痛ヲ認ム體溫三十六度七分、三分一筒注射、部位右上臍、瘰癧
ノ鮮紅色頓ニ減退ス

十三日 局處及全身症狀前回ニ同シ左上臍ノ發赤尙ホ殘存ス體溫三十六
度九分、三分一筒注射、瘰癧ノ症狀前回ニ同シ

十六日 注射後全身症狀ヲ發セズ注射部ニハ發赤、腫脹及ヒ輕微ノ壓痛
ヲ有ス右頸部ニ新ニ二箇ノ瘰癧ヲ生ズ體溫三十六度九分、三分一筒注射

十八日 全身症狀無シ局處症狀ハ極メテ輕微ニ存セシモ一過性ナリ體溫
三十六度八分、二分一筒注射

二十日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度六分、二分一筒注射、顔面瘰
癧概ネ褪色シ右頸部ノ新生瘰癧モ亦吸收シテ僅ニ色素沈著ヲ留ム

二十三日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度七分、二分一筒注射、瘰癧
ノ増減ヲ認メズ

二十五日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度四分、三分二筒注射
二十七日 局處及全身症狀輕微ニ自覺シタルモ翌朝ニ至リ該症狀忘レタ

ルガ如シ體溫三十六度六分、三分二筒注射

三十日 局處及全身症狀前回ノ如シ體溫三十六度六分、三分二筒注射
十一月一日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度五分、三分二筒注射、瘰
癧殆ド全ク消散シ只色素ノ沈著ヲ留ムルノミ

八日 局處及全身症狀無ク患者殆ド治癒シタルヲ自覺シ本日ニ至ルマデ
來診セズ體溫三十六度五分、三分二筒注射

十三日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度五分念ノ爲メ尙注射ヲ持續ス
ルコトトナシ、三分二筒注射

十五日 局處及全身症狀無シ當夜試ニ酒ニ合五勺てんぶら二人前ヲ食シ
タルモ何等ノ症狀自覺セザリシト告グ體溫三十六度五分、三分二筒注射

十七日 體溫三十六度五分、三分二筒注射
二十日 體溫三十六度六分、三分二筒注射

二十二日 體溫三十六度六分、三分二筒注射
全治

備考 治療延日數 四十三日、注射回數 十七回「アイオン、ワクチン」
三分一筒五回、同二分一筒二回、同三分二筒十回

第四例 増澤某 二十一歳、學生 外來番號六九九三 明治四十四年十
月十三日初診

診斷 尋常性瘰癧 病歴 三年前ヨリ發疹シ、特ニ夏季ニ於テ著シク昨
年夏頃ヨリハ背部ニモ同様發疹セリ

十三日 體溫三十六度九分、「アイオン、ワクチン」三分一筒注射、部位
左上臍

十六日 注射後二時間ヲ經テ局處ニ腫起潮紅ヲ呈シ夕景頃ヨリ少シク發

熱ノ感アリタルモ翌々朝ニ至リ右等ノ症狀全ク去リタリ體溫三十六度七

分、三分一筒注射、部位右上臍、瘰癧ノ症狀依然タリ

十八日 前回ニ比シ局處及全身症狀輕微ニシテ只翌朝マテ僅ニ頭痛ヲ覺

キシノミ體溫三十六度八分、三分一筒注射瘰癧少シク減退セルノ感アリ

二十日 二分一筒注射、瘰癧著シク吸收減退ス

二十三日 二分一筒注射

二十五日 臍部ニ於テ二筒ノ新瘰癧ヲ見ル二分一筒注射

二十七日 三分二筒注射

三十日 三分二筒注射

十一月一日 三分二筒注射、瘰癧ノ減退著シク新生瘰癧亦吸收セラレ

八日 三分二筒注射患者自ラ曰ク「毎常注射當日及ビ翌日ハ顔面ニ多少

ノ熱灼感ヲ覺エ翌々朝ニ至リ其症狀去リ且ツ體溫ニ異常ナクシテ瘰癧ハ

輕快スルヲ覺ユト」

十三日 三分二筒注射、瘰癧殆ド認ムベカラズ又色素沈著ヲ來サズ

十五日 三分二筒注射

十七日 三分二筒注射

瘰癧全ク消退ス

備考 治療延日數 三十五日、注射回數 十三回「アイヨン、ワクチン

ン」三分一筒三回、二回一筒三回、三分二筒七回

第五例 山下某 二十三歳 學生 外來番號三一四七 明治四十四年十

月二十日 體溫三十六度八分、「アイヨン、ワクチン」三分一筒注射、

部位左上臍

診斷 尋常性瘰癧 病歴 六年前ヨリ發疹シ現ニ多クノ發疹ト高度ノ色

素沈著ヲ留ム

二十三日 注射翌朝ニ至リ局處ニ腫起潮紅ヲ呈シ疼痛稍ク甚シク發熱ヲ

來シ食慾少シク不振ノ氣味アリシモ翌々朝ニ至リテ治シ只局處ニ潮紅ト

輕微ノ壓痛ヲ留ムルノミ瘰癧著シク減退シタリ體溫三十六度八分、三分

一筒注射、部位右上臍

二十五日 三分一筒注射

二十七日 二分一筒注射、舊瘰癧著シク減退セルモ臍部及ビ前頭部ニ各

一筒ノ粟粒大ノ新瘰癧ヲ認ム

三十日 二分一筒注射

十一月一日 二分一筒注射、瘰癧殆ド全治ス

六日 二分一筒注射

八日 二分一筒注射

十三日 二分一筒注射

十五日 二分一筒注射

十七日 瘰癧全ク治シ再發ノ傾向ナク只色素沈著ヲ留ムルノミ注射ヲ休

止ス

備考 治療延日數 三十八日間、注射回數 十回「アイヨン、ワクチン」

三分一筒三回、二分一筒七回

第六例 中西某 十五歳 學生 外番七一一〇 明治四十四年十月二十

日初診

尋常性瘰癧 病歴 今ヨリ二週間前、頭部ニ雀卵大ノ腫脹ヲ生ジ
疼痛甚シク外科ニ入院、切開ヲ施サル(癰腫?)而シテ其以前ヨリ顔面及
ビ頸部ニ於テ輕度ノ搔痒ヲ有スル散發性ノ小發疹ヲ生シ居レルヲ以テ皮
膚科ニ來ル

二十日 體溫三十六度九分、第二例室田某ヨリノ自家「ワクチン」一筒注
射、部位左上臍

二十三日 注射後一時間ヲ經テ局處ニ輕微ノ腫起潮紅ヲ來シ僅カニ熱發
ノ感アリシモ翌朝ニ至リ去ル體溫三十七度、一筒注射、部位右上臍、瘰
癧著シク減退シテ急性症狀全ク去ル

二十五日 一筒注射、患者歸國ス

備考 治療延日數 六日間、注射回數 自家「ワクチン」二筒三回

第七例 内村某 十五歳 學生 外來番號七一七一 明治四十四年十月

二十三日初診

癰腫 病歴 今ヨリ約一ヶ月前ヨリ臀部ニ左右交代性ニ疼痛稍、
劇シキ腫物ヲ發生シ雀卵大乃至鳩卵大ニテ目下左臀部ニ殆ド鷄卵大ノ周
圍ニ硬キ浸潤ヲ有スル疼痛著シキ腫瘍一箇及ビ小豆大ノ小腫瘍三箇ヲ數
ヘ右臀部ニ於テハ浸潤弱キ豌豆大ノ腫瘍一箇ヲ存ス

二十三日 「アイオン、ワクチン」三分一筒注射、部位左上臍、左臀部鷄
卵大ノ癰ハ中心ニ波動ヲ有ス依テ刀尖ヲ以テ切開排膿シ綿帶數日ニシテ
治ス

十一月十三日 右臀部二十錢銀貨大ノ癰ヲ發生ス體溫三十七度、三分一

筒注射

二十日 注射後三四時間ヲ經テ注射部發赤シ輕度ノ搔痒ヲ覺エ翌朝ニ至
リ該症狀去ル右臀部ノ癰腫ハ尖端化膿スルニ至リ指頭ヲ以テ壓迫シタル
ニ排膿セリ體溫三十七度二分、二分一筒注射
其後來診セズ

備考 治療延日數 二十七日、注射回數 三回 「アイオン、ワクチン」
三分一筒二回、同二分一筒一回

第八例 岡某女 莫大小商 十六歳 外來番號六八一 明治四十四
年十月三十日初診

診斷 尋常性瘰癧 病歴 本年一月頃ヨリ顔面ニ於テ散發性小疹ヲ生ジ
搔痒及ビ疼痛ヲ伴ハズ漸次増加蔓延シタルヲ以テ美顔水及ビ硼酸水ヲ塗
布シタルモ何等ノ效ヲ致サズ十月五日當大學病院ニ來リクムメルフェル
ド氏液ヲ與ヘラレ朝夕命ノ如ク塗布シタルニ一時僅ニ輕快ヲ覺エシモ其
使用ヲ止ムレバ却テ劇シキ發疹ヲ來スガ如キ感アリト云フ

三十日 體溫三十七度、「アイオン、ワクチン」三分一筒注射、部位左上
臍

十一月一日 局處ニ僅微ノ發赤腫脹ヲ來シタル外全身症狀ヲ呈セズ體溫
三十七度、三分一筒注射、部位右上臍

六日 局處ニ發赤腫脹ヲ來シ搔痒ヲ伴ヒ全身症狀トシテハ輕度ノ發熱及
ビ頭痛アリシモ翌々朝ニ至リ以上ノ症狀去ル體溫三十六度五分、三分一
筒注射

八日 局處ニ前回ヨリモ僅微ノ發赤腫脹搔痒ヲ來シ全身症狀ヲ缺ク體溫

三十六度五分、三分一筒注射、瘰癧著シク減退シタルモ右頰部ニ數箇ノ小新生疹ヲ認ム

十五日 局處及全身症狀無シ體溫三十六度五分、二分一筒注射

十七日 注射後二時間ヲ經テ局處ニ輕度ノ腫脹ト疼痛ヲ覺エシモ翌朝ニ

至リ去リ全身症狀ヲ缺ク體溫三十六度五分、二分一筒注射

二十日 注射後六時間程ヲ經テ局所ニ發赤ヲ來シ且ツ該部ニ瘰癧アリ翌

朝ニ至リ如上ノ症狀去ル體溫三十六度八分、二分一筒注射

二十二日 二分一筒注射

二十四日 二分一筒注射

二十七日 八名菌混合「ワクチン」二分一筒注射、瘰癧ノ治癒甚ダ遅々タ

リ(「ブイヨン、ワクチン」缺乏シタルガ故ニ混合「ワクチン」ニ代フ)

二十九日 局處及全身症狀無シ體溫三十七度一分、二分一筒注射、瘰癧

稍々減退シ來ルノ觀アリ

十二月一日 局處ニノミ輕度ノ瘰癧ヲ覺エタリ平熱、二分一筒注射

六日 平熱、二分一筒注射

八日 局處ニ輕度ノ腫脹アリシモ晩景ニ至リ去ル二分一筒注射、瘰癧殆

ド消退シ色素沈著ヲ認ム

十一日 二分一筒注射

十三日 二分一筒注射

十五日 二分一筒注射、顔面ノ瘰癧消退ノ痕跡トシテ尙ホ色素沈著ヲ認

ムルモ注射ヲ休止シ新生セバ再來スベキコトヲ約ス

備考 治療延日數 四十六日、注射回數 十五回「ブイヨン、ワクチン」

三分一筒四回、同四分一筒四回、八名混合「ワクチン」二分一筒七回
第九例 蝶谷某 機械師 二十三歳 外來番號七四七〇 明治四十四年
十一月六日初診

診斷 尋常性瘰癧 病歴 三年前ヨリ顔面ニ小發疹ヲ生ジ時々美顏水ヲ

購求シテ之ヲ塗布シタルモ何等ノ效ヲ奏セズ近時前頸部及ビ項部ニ於テ

モ同様ノ發疹ヲ發生スルニ至リシト云フ

六日 體溫三十六度五分、「ブイヨン、ワクチン」二分一筒注射、部位左

上臍

八日 注射後三時間ヲ經テ局處ニ發赤腫脹ヲ來シ次テ熱感アリ頭痛ヲ伴

ヒ晚食シタルニ嘔吐ヲ來シタリ依テ就牀シタルニ其夜尙ホ熱候ヲ覺エ翌

朝ニ至リ如上ノ症候大ニ輕快セシモ甚シク疲勞ノ感アリ職ヲ執ル能ハズ

本朝ニ至リ尙ホ熱候ヲ有ス體溫三十七度五分、反應劇烈ナリト認メ注射

ヲ見合ス瘰癧ノ症狀ハ大ニ減退ス

其後來診セズ

備考 治療延日數 三日、注射回數 「ブイヨン、ワクチン」二分一筒一

回

第十例 清水某 洋服屋小僧 十六歳 外來番號七六〇六 明治四十四

年十一月十三日初診

診斷 尋常性瘰癧兼面皰兼毛囊炎 病歴 今ヨリ一ヶ月前、何等ノ原因

ヲ自覺セズシテ顔面ニ米粒大ヨリ雀卵大ニ達スル發疹ヲ散生シ腫脹疼痛

ヲ伴ヒ熱發ヲ覺エタリ依テ某醫ノ診療ヲ受ケタルニ内服藥ヲ與ヘラン約

三週間服用ヲ持續シタルモ治癒スル傾向ヲ認メズ其大ナルモノハ前額部

ニ一箇、兩頰部ニ各一箇、頤部ニ一箇ヲ數ヘ指壓ニヨリ波動ヲ有セリ
其他頤部ニ一箇ヲ有スルモ波動ヲ有セズ又顔面ニ於テ瘰癧及ビ面皰ノ發
生ヲ認ム

十三日 體溫三十七度、八名菌混合「ワクチン」三分一筒注射、部位左上
臍

十五日 注射後二時間ヲ經テ局處ニ刺スガ如キ疼痛ヲ覺エテ同部ニ天
保錢大ノ潮紅ヲ呈シ之ヲ壓スレバ輕度ノ疼痛ヲ自覺ス然レドモ全身症狀
ヲ缺ク體溫三十六度八分、三分一筒注射、部位右上臍、瘰癧及ヒ毛囊炎
ノ急性症狀減退ス

十七日 局處症狀前回ニ比シ較ク輕キヲ覺ユ而シテ翌日夜九時頃入浴後
少シク熱感ヲ僅シ頭痛ヲ覺エタルモ本朝ニ至リ該症狀去ル體溫三十七度
五分、三分一筒注射

二十日 注射後二時間ヲ經テ局處ニ輕度ノ症狀ヲ呈シタル外、全身症狀
無シ體溫三十七度二分、二分一筒注射、頰部ノモノ著シク減退感アルモ
前額部ノモノ依然トシテ舊ノ如シ

二十二日 注射後四時間ヲ經テ局處ニ輕度ノ發赤腫脹ヲ來シ微ニ痛痒ヲ
自覺シタルモ翌朝ニ至リ該症狀去ル體溫三十七度、二分一筒注射
教授ノ命ニ據リ波動ヲ有スル膿疱ヲ刀尖ヲ以テ開クシ排膿シタル後絆創
膏ヲ貼布ス（前額部一箇、兩頰部各一箇、頤部一箇）

二十四日 注射當日就牀前僅カニ熱感ヲ覺エシモ翌朝全ク去リ局處症狀
ヲ呈セズ體溫三十六度九分、二分一筒注射、瘰癧ノ浸潤益々消退ス

二十七日 局處及全身症狀無シ頤部ニ米粒大ノ新瘰癧一箇ヲ認ム體溫三

十七度、二分一筒注射

二十九日 體溫三十七度、二分一筒注射、頤部ノ新生瘰癧膿疱ヲ作ラズ
シテ吸收ノ傾キアリ

十二月一日 體溫三十七度一分、二分一筒注射
四日 體溫三十七度、二分一筒注射

六日 體溫三十七度、三分二筒注射
八日 注射後局處ニ輕微ノ反應ヲ呈シ晚景ニ至リ去ル前額部ニ癩痕様浸
潤ヲ留ムルノ他、一般顔貌大ニ良、瘰癧ノ新生ヲ來サズ教授ノ瀏覽ヲ經
タルニ尙ホ注射ヲ持續スベシト、三分二筒注射

十一日 平熱、三分二筒注射
十三日 平熱、三分二筒注射

十五日 平熱、三分二筒注射
十八日 平熱、三分二筒注射

二十日 平熱、三分二筒注射
前額部ニ僅ニ浸潤ヲ認ムルノ他全ク治癒シタルヲ以テビツク氏硬膏ヲ貼
シ歲末ニ就キ之ヲ與ヘテ一時注射ヲ中止シ新春早々來院ヲ命ズ
明治四十五年一月十三日 來診 全ク治癒シテ前額部ノ硬結亦全ク去ル
備考 治療延日數 三十七日、注射回數 十七回 八名混合「ワクチン」

三分一筒三回、同二分一筒七回、同三分二筒七回
第十一例 中川某 學生 十九歲 外來番號七七二〇 明治四十四年十
一月十七日初診

診斷 尋常性瘰癧兼毛囊炎 病歴 三年前ヨリ顔面ニ散發性發疹ヲ生ジ

放置シタルニ本年三月十七日頃ヨリ大ナル硬結性發疹ヲ多數ニ生シ某醫
ノ診療ヲ受ケ膏藥ヲ貼用シタルニ何等ノ奏效ヲ呈セズ依テ放置シタルニ
ルニ七月頃ニ至リ一時輕快ヲ覺エ次テ十月頃ヨリ再ビ硬結性浸潤ヲ有ス
ル發疹ヲ生シ又放置シタルニ漸次蔓延増加シテ目下ノ狀態ニ至レリト告
グ、酒及ビ煙草ヲ嗜マズ

顏面ヲ視ルニ左右兩頰部ニ硬結性浸潤ヲ呈セル指頭大ヨリ米粒大ニ達シ
潮紅ヲ呈スル發疹ヲ認メ間々搔把ノ爲メニ起リシト思意スル結痂ヲ破フ
モノ七個ヲ數ヘ膿疱ヲ有スルモノ十餘箇ヲ數フ全身ヲ檢スルニ下脚ノ前
面ニ於テ毛囊ニ一致シテ二三ノ拇指頭大發疹ヲ認メ疼痛稍々甚シク緊迫
ノ感アリト云フ

十七日 體溫三十七度、八名混合「ワクチン」二分一筒注射、部位左上臍
二十日 注射後五時間ヲ經テ局處ニ輕度ノ發赤腫脹ヲ來シ之ニ觸ル、ニ
多少ノ硬結ヲ有セシモ今朝ニ至リ全ク去ル體溫三十七度、二分一筒注射、
部位右上臍、患者自ラ訴フラク「顏面ニ於ケル發疹著シク快癒ノ感アリ」
ト、右下脚部ニ一箇小豆大ノ硬結アル毛囊炎ヲ新生ス

二十二日 注射後四五時間ヲ經テ全身倦怠感アリ然レドモ四時間程ヲ經
テ此症狀去リ頭部却テ爽快ヲ覺ユ、體溫三十七度、二分一筒注射、瘰癧
著シク快癒ニ傾ク

二十四日 局處及全身症狀ヲ有セシモ極メテ輕度ナリ平熱、二分一筒注
射、瘰癧殆ド全治シ只色素沈著ヲ留ムルノミ

二十七日 局處及全身症狀無シ平熱、二分一筒注射

二十九日 左眉毛部ニ一箇ノ米粒大ノ新瘰癧ヲ見ル、平熱、二分一筒注

射

十二月一日 眉毛部ノ新瘰癧未ダ吸收セズ他ハ全ク良、平熱、二分一筒

注射

四日 平熱、三分二筒注射

六日 一時間ヲ經テ局處ニ輕度ノ發赤腫脹ヲ來シ上肢一般ニ倦怠感アリ

翌朝ニ至リ同症狀去ル、平熱、三分二筒注射、眉毛部ノ新瘰癧全ク吸收

シテ痕跡ヲ留メズ

八日 平熱、三分二筒注射

十一日 平熱、三分二筒注射

十五日 瘰癧及ビ兩下脚ノ毛囊炎一モ痕跡ヲ留メズ顏面ニハ僅カニ色素

沈著ヲ存ス、教授ノ劉覽ヲ受ク

患者早稻田大學生ニシテ明日ヨリ修學旅行ニ赴クトノ故ヲ以テ注射ヲ休
止シ尙ホ再發セバ新春來院スベキコトヲ命ゼシニ今ニ來院セズ完ク治癒
セルモノナラン

備考 治療延日數 二十八日、注射回數 十二回 八名混合「ワクチン」

二分一筒六回、同三分二筒四回

第十二例 春田某女 二十歳 學生 外來番號七八四二 明治四十四年

十一月二十二日初診

診斷 尋常性瘰癧 病歴 四年前ヨリ顏面ノ諸所ニ粟粒大發疹ヲ生シ某
醫ノ診療ヲ受ケ水藥ヲ以テ一日三回塗布シタルニ一時輕快セシモ全治ス
ルニ至ラズ時ニ劇シキ發疹ヲ來シ輕度ノ腫脹ヲ伴フコトアリト云フ尙ホ

目下微ニ癩瘡アリト、顔面特ニ前額部ニ於テ間々膿疱ヲ有スル發疹著明ニ、次テ項部、兩頰部ニ至リ僅ニ腫脹ヲ認ム

二十二日 體溫三十六度五分、八名混合「ワクチン」二分一筒注射、部位左上膊

二十四日 注射後四時間ヲ經テ局處ニ發赤腫脹ヲ來シ次テ發熱及ビ頭痛ヲ覺エ晚餐稍々減量シタリ翌朝ニ至リ全身症狀去リシモ尙ホ發赤ヲ留メ癩瘡アリ僅ニ壓痛ヲ有ス、體溫三十六度八分、二分一筒注射、部位右上膊、癩瘡ノ急性症狀ニ減却ス

二十七日 局處全身症狀ヲ有セシモ輕度ニシテ前同ノ比ニ非ズ今朝ニ至リ是等ノ症狀去ル、體溫三十六度八分、二分一筒注射

二十九日 局處症狀輕微ニ存ス、體溫三十六度五分、二分一筒注射

十二月一日 局處及全身症狀無シ、平熱、二分一筒注射

四日 平熱、二分一筒注射

六日 右頸部ニ小豆大ノ硬キ浸潤ヲ有スル癩一箇ヲ生ズ其他兩頰部ノ腫脹去リシモ快癒甚ク遅々タリ、平熱、三分二筒注射

八日 局處及全身症狀無シ項部ニ帽針頭大ノ硬キ浸潤ヲ有スル癩一箇ヲ生ズ、平熱、三分二筒注射

十一日 局處及全身症狀無シ項部及ビ頸部ノ癩ハ膿點ヲ頂カズシテ浸潤ノ吸收スル傾向ヲ認ム、平熱、三分二筒注射

十三日 三分二筒注射、癩瘡全ク治癒シ、癩亦浸潤去ル

十五日 三分二筒注射、教授ノ劉覽ヲ受ケ一時注射ヲ休止ス

明治四十五年一月十七日 再來、兩頰部ニ潮紅ヲ呈シ癩瘡ノ發生多カラザルモ再發ヲ慮レテ來診シタリト告グ、體溫三十七度、十四名菌混合「ワクチン」三分一筒注射

十九日 局處症狀有リシモ極メテ輕度ナリ、平熱、三分一筒注射、潮紅著シク消褪シ癩瘡吸收ノ傾キアリ

二十二日 平熱、三分一筒注射

二十四日 平熱、二分一筒注射

二十六日 平熱、潮紅去リ癩瘡全ク治癒ス

備考 治療延日數 二十三日、注射回數 十回 八名混合「ワクチン」二分一筒五回、同三分二筒五回、翌年七日間、十四名混合「ワクチン」三分一筒四回

第十三例 村井某女 二十二歳 東京女子高等師範學校學生 外來番號 七九一一 明治四十四年十一月二十七日初診

診斷 癩腫症 病歴 四十年春頃ヨリ項部ニ癩瘡甚ク強キ發疹ヲ生シ當時某醫ノ診察ヲ受ケ治癒シタリ本年十月十七日頃顔面ニ二三ノ壓痛ヲ有スル發疹ヲ來シ校醫ノ診察ヲ受ケ膏藥ヲ貼用シタルニ一時治癒ニ傾キシモ全治スルニ至ラズ今ヨリ四日程前顔面ニ腫脹ヲ來シ疼痛稍々甚シク再

ビ校醫ノ診察ヲ受ケシニ「ビッカ氏膏」ヲ與ヘラレテ貼用シタルニ更ニ治癒スルノ傾向ヲ有セズ其大ナルモノ八箇ヲ數フ就中右眼窩内眥部ニ於ケルモノハ腫脹浸潤甚シク昨今惡寒戰慄ヲ來シ食氣不振ナリト云フ、月經

順調、便通普通

二十七日 體溫三十六度二分、八名菌混合「ワクチン」二分一筒注射、部

位左上膊

二十九日 注射後四時間ヲ經テ局處ニ腫起潮紅ヲ呈シ次テ熱候ヲ自覺セ

シモ翌朝ニ至リ是等ノ症狀去リ只局處ニ輕度ノ潮紅ヲ留ム、體溫三十六

度八分、二分一筒注射、部位右上膊、顔面ノ腫脹著シク減退シ癰腫ノ急

性症狀去ル

十二月一日 局處症狀ノミ有シタルモ翌朝ニ至リ去ル、體溫三十六度八

分、二分一筒注射

四日 注射當日局處症狀無カリシヲ以テ夜八時頃入浴セシニ輕度ノ惡寒

ヲ覺エタルモ翌朝ニ至リ忘レタルガ如シ一般ニ癰腫ノ症狀甚ダ良ナルモ

左顔面顛顫部ニ小豆大ノ一箇ノ新癰發生ス、二分一筒注射

六日 局處及全身症狀無シ舊癰腫一般ニ減却セルモ又左頸部ニ豌豆大ノ

硬キ浸潤ヲ有スル一箇ノ新生癰ヲ認ム、三分二筒注射

八日 又右口角部ニ一箇ノ米粒大新生癰ヲ發生ス、三分二筒注射

十一日 左顛顫部ノ癰、左頸部ノ癰、右口角部ノ癰等執レモ浸潤減却シ

舊癰腫ハ僅カニ痕跡ヲ留ムルノミ、三分二筒注射

十六日 顔面、頸部等一モ癰ヲ認メズ只輕度ノ色素沈著ヲ有ス、三分二

筒注射

二十日 殆ド全治、三分二筒注射、明春再來ヲ約ス

備考 治療延日數 二十三日、注射回數 九回 八名混合「ワクチン」二

分一筒四回、同三分二筒五回

明治四十五年一月十三日 再來シテ曰ク一兩日前ヨリ少シク逆上ノ氣味

アリ再發ヲ虞レ診テ乞フト、只左耳垂下ニ一箇米粒大ノ新生セントスル

癰ヲ認ムルノ他、異狀ナシ、十四名混合「ワクチン」二分一筒注射

十五日 輕度ノ局處症狀アリシモ翌朝去ル又逆上ノ氣味去リ癰減却ス、

二分一筒注射

十七日 又何等發生ノ症狀無シ、二分一筒注射

十九日 二分一筒注射、完全治癒、教授劉覽

備考 治療延日數 七日間、注射回數 十四名混合「ワクチン」二分一筒

四回

第十四例 芝崎某 農 三十四歲 外來番號八二二五 明治四十四年十

二月十三日初診

診斷 慢性毛囊炎 病歴 四十一年春頃ヨリ項部ニ癢痒甚ダ強キ小指頭

大ノ發疹ヲ來シ某醫ノ治療ヲ受ケ膏藥ヲ貼用シタルニ一時輕快シタルモ

昨年八月頃ヨリ數多ノ同様腫物ヲ後頭部ノ諸處及ビ項部ニ散在性ニ發生

シタリ依テ再ヒ某醫ノ治療ヲ受ケ膏藥ヲ貼用シタルニ治癒ノ傾向ヲ認メ

ズ全頭部ノ各處ニ發生シ腫脹疼痛ヲ伴フト云フ

頭部ヲ檢スルニ毛髮中ニ豌豆大乃至小指頭大ノ膿痂ヲ附着シ少シク隆起

セル腫瘍七箇ヲ數ヘ頸部二十箇、右耳前頰部ニ一箇ノ同様腫瘍ノ發生ヲ

視レ試ニ「ピンセット」ヲ以テ膿痂ヲ剝離スルニ毛囊口ニ一致セル腫瘍ノ

周圍ニハ潮紅ヲ呈シ稍々甚シキ疼痛ヲ訴フ尙ホ近時甚シク癢痒ヲ覺ユト

云フ

十三日 體溫三十七度、八名菌混合「ワクチン」三分一筒注射、部位左上

膊

十四日 注射後一時間ヲ經テ局處ニ發赤腫脹ヲ來シ疼痛ヲ伴ヒ熱發有リ

シテ以テ臥牀シタリ頭痛及ビ頭重ヲ伴ハズ翌朝ニ至リ上記ノ症狀去リ氣分亦爽快トナリタリ局處ヲ輕壓スルニ尙ホ僅カニ疼痛ヲ覺ユ體溫三十七度五分、三分一筒注射、部位右上臍、總テノ毛囊炎著シク急性症狀ヲ殺ギ各々乾痂ヲ被ルニ至ル

十五日 局處症狀前回ニ比シ甚ダ微弱、全身症狀無シ、快癒著明ナルヲ以テ教授ノ劉覽ニ供ス、體溫三十七度、三分一筒注射

十六日 局處症狀極メテ微弱ナリシモ時々惡心ヲ來スコトアリシト云フ體溫三十七度、二分一筒注射、毛囊炎ノ症狀益々良

十七日 局處及全身症狀無シ體溫三十七度、二分一筒注射、毛囊炎完全ニ治癒ス、教授ノ劉覽ヲ經

此患者止ムヲ得ザル事ヲ以テ歸國ヲ乞フ依テ毎日注射ヲ行ヒタリ而シテ教授ノ命ニ據リ常ニ檢尿、特ニ蛋白ヲ檢スルコトヲ怠ラザリシガ遂ニ其痕跡ヲモ證明セズシテ治癒シタリキ

備考 治療延日數 七日間、注射回數 五回、八名混合「ワグチン」三分一筒三回、同二分一筒二回

第十五例 荒井某女 二十歳 學生 明治四十五年三月二十日初診 診斷 尋常性瘰癧 病歴 四十三年春頃ヨリ顔面ニ多數ノ小發疹ヲ生ジ

某醫ノ診ヲ受ケ膏藥及ビ塗布藥ヲ用キシモ一消一長アリテ全治スルニ至ラズ視診スルニ兩頰部ノ潮紅劇甚ニシテ間ク瘰癧ノ膿疱ヲ認ム

二十日 體溫三十七度、十四名混合「ワグチン」二分一筒注射、部位左上臍

二十二日 注射後四時間ヲ經テ輕度ノ局處症狀アリ全身症狀無シ、二分

一筒注射、部位右上臍、體溫三十七度

二十五日 局處症狀殆ド前回ニ同シ全身症狀無シ、一筒注射

二十七日 注射後二時間ヲ經テ局處ニ輕度ノ發赤腫脹ヲ來シ僅ニ惡寒ヲ覺エタルモ翌朝ニ至リ去ル、兩頰部ノ潮紅著シク殺ケ、一筒注射

二十九日 局處症狀輕微ニ存セリ全身症狀無シ一筒注射、患者自ラ來リテ曰ク「餘程瘰癧無クナリシヤウニ覺ユ」ト

四月一日 局處及全身症狀無シ、一筒注射、瘰癧ノ浸潤益々減却セルヲ認ム

三日 一筒注射、注射部ニ時々輕度ノ癢痒ヲ覺ユト訴フ

五日 一筒注射、瘰癧ノ減却著シク又再發シ來ラズ患者偶々鎌倉片瀨等へ遠足ニ赴クト告ケ

八日 遠足ヨリ歸京シタルモ瘰癧ノ再發ヲ認メズ、一筒注射

十日 一筒注射

十二日 一筒注射

十五日 一筒注射、教授劉覽、殆ド快癒、教授予ニ注射ノ中止ヲ謀ランタルモ尙ホ數回續行セント應フ

十七日 一筒注射

十九日 一筒注射

二十二日 一筒注射、教授劉覽、瘰癧全ク減却シテ僅カニ色素ノ沈著ヲ認ムルノミ

二十四日 刺納林巴斯答ヲ與ヘテ塗擦ヲ命ズ、全治

備考 治療延日數 三十二日、注射回數 十五回 十四名混合「ワグチン」

「」二分一筒二回、一筒十三回

第十六例 荒井某 十九歳 學生 明治四十五年三月二十日初診

診斷 尋常性瘰癧病歷昨年春頃ヨリ顔面及ビ頸部ニ多數ノ發疹ヲ生ジタ

ルモ醫治ヲ受ケズ放置シタルニ本年ニ至リ前胸部及ビ上臍上方ニ迄蔓延

シタルヤノ感アリ依テ來診、高橋學士紹介

二十日 體溫三十七度、十四名菌混合、「*ブクチン*」一筒注射、部位左上臍

二十二日 注射後晚景ヨリ熱發ノ感アリ早寢セシト云フ、體溫三十七度

二分、一筒注射、部位右上臍

二十五日 局處及ビ全身ニ輕度ノ自覺症アリタルモ今朝ニ至リ去ルト云

フ、體溫三十七度一分、一筒注射

二十七日 局處及全身症狀無シ、一筒注射、瘰癧著シク減却ス

二十九日 晚景ニ至リ僅ニ頭痛ヲ覺エタルモ翌朝ニ至リ去ル、一筒注射

上臍上部、胸部、頸部等ノ瘰癧モ亦著シク減却ス

四月一日 局處及全身症狀無シ、一筒注射、患者自ラ訴フラク頸、腕等

ハ殆ド治シテ前日ト全ク異ルノ感アリト

三日 一筒注射、顔面及ビ頸部ノ瘰癧ノ浸潤著シク去ル

五日 一筒注射

八日 一筒注射、顔面ニ於テノミ僅カニ瘰癧後ノ色素沈著ヲ留ム

十日 一筒注射、殆ド全治、患者勉強ノ都合上一時休止ヲ乞フ即チ再發

セバ來診スベシト約ス

備考 治療延日數 二十日、注射回數 十四名菌混合、「*ブクチン*」二筒十回

結 論

病竈中ニ專ラ葡萄狀球菌ノ證明サル、二三ノ皮膚疾患中尋常性瘰癧十二例、癰腫三例、毛囊炎二例(此内一例ハ尋常性瘰癧ヲ兼ヌ)計十六例ニ就テ患者自身ヨリ採取シタル葡萄狀球菌ノ mono- und polyvalente Vaccine ナテ其治療ヲ試ミタリ

注射液ハ次ノ如ク之ヲ製シタリ

一、黄色及白色葡萄狀球菌各一株 (*Staph.*) ノ混合「*ブイオン*」四日間培養

ヲ攝氏八十度ニテ三十分間滅菌シ「*ライヘル*」氏濾過器 *Reichel-Filter* ニテ

濾過セシモノ

二、黄色葡萄狀球菌ノミノ寒天斜面二十四時間培養一白金耳ヲ生理的食鹽

水五・〇立仙米中ニ浮游セシメ之ヲ八十度、三十分間、二回ニ滅菌セシ

モノ

三、八乃至十四名ノ患者ヨリ獲タル白色及黄色葡萄狀球菌ノ寒天二十四時

間培養ヲ作り各試驗管ニ五・〇立仙米宛ノ生理的食鹽水ヲ入レテ培養基

面ヲ洗ヒ全體ヲ集メテ之ヲ同ジク八十度、三十分間、滅菌シ後濾過シ更

ニ〇・五%ノ割合ニ石炭酸ヲ加入セシモノ

各注射液ハ培養試驗上生菌ノ存在セザルコトヲ確メ動物試驗ニ據リテ全ク

無毒ナルコトヲ證明セシ後使用セリ注射ハ隔日ニ行ヒ毎回四分ノ一乃至一

立仙米宛一回ヨリ二十六回ニ及ビ注射全量二〇立仙米ニ達セリ

注射後ノ經過ハ早キハ第一回注射後既ニ發赤、疼痛、腫脹等ノ急性症狀ノ

著明ニ減退スルヲ認メ引續キ第三回第四回ニ至レバ膿疱ノ大部分ハ跡ニ輕

度ノ色素沈著ヲ遺シテ消失ス新膿疱ノ再生セル場合モ十四五回ノ反復注射

ニヨリ約二ヶ月(六十七日)ニシテ全然ハ殆ド全ク吸收サル此際局所及全

身反應ハ全ク缺如スルカ或ハ注射部ノ發赤、腫脹、疼痛稀ニ發熱、倦怠、頭痛等ノ全身症狀ヲ伴フコトアソドモ多クソ一兩日ニシテ消去スルヲ常トス
 效力ノ點ニ於テハ多クノ菌株 (Bakterienstämme) ナリテ製セル多價「ロツチン」ノ最モ有效ニシテ自家「ロツチン」ニシテ「アギ」ノ「イオン」培養ヲ以テ製セルモノソ局所反應ノ劇甚ナル割合ニ微候ノ快癒ノ比較的顯著ナラズ

Literatur.

- 1) Bockhart, Über die Aetiologie und Therapie der Impetigo, Furunkel und Sykosis. Monatschr. f. p. Derm. 1887.
- 2) Gilchrist, The etiology of acne vulgaris. Journ. of Cutaneous Diseases. 1903, März.
- 3) C. Herxheimer, Beiträge zur Therapie der Acne vulgaris. Deutsch. med. Wochenschr. 1907, No. 34.
- 4) Riehl, Beitrag zur Aetiologie der Acne vulgaris. Centralbl. f. Bact. 1. Abt. Orig. 1910. Bd. 55. Heft 3.
- 5) A. Philippson, Wie behandelt man die Furunkulose? Dermatologisches Centralblatt. 1889, 11.
- 6) A. Bidder, Die abortive Behandlung des Furunkels mit Hille subcutaner Desinfektion. Deutsche med. Wochenschr. Nr. 1902, Nr. 18 u. 19.
- 7) Kelly, Staphylococcenraucoin. Brit. Med. Journ. 2494.
- 8) Wright, Lancet, 1902, p. 874-884.
- 9) Wright, Brit. med. Journal 1904.

- 10) Weinstein, Berl. kl. W. 1906, No. 30.
- 11) A. Clarke Begg, Bemerkungen über die Vakzin-Behandlung von Staphylococcenentzündungen. Brit. Med. Journ., 22. Jan. 1910.
- 12) A. Strubéll, Opsonische über Staphylokokkenimmunität. Deutsch. Med. Wochenschr. No. 18, 1912.

- 一三、瀬川平造。癩患者ヨリ得タル一種ノ連鎖球菌ニ就テ (細菌、一〇二) 明治三十七年五月
- 一四、遠山郁三。毛囊炎患者説明 (皮膚六ノ二) 三十九年
- 一五、北川文男。頭部ノ乳嘴狀増贅性毛囊炎 (皮膚七ノ三、四) 四十年八月
- 一六、伊藤隼三。轉移性膿瘍ヲ發生セル癩瘡ノ一例附手術部ノ一新消毒法ニ就テ (醫誌一六〇六) 四十二年
- 一七、山田弘倫。旭憲吉。皮膚病診斷及治療法。三十七年
- 一八、山田弘倫。皮膚病學ヨリノ美容法。四十二年
- 一九、土肥慶藏。皮膚科學 (上卷) 四十四年再版、癩瘡
- 二〇、同。日本皮膚病微毒圖譜 (全) 三十六乃至四十二年、尋常性毛瘡
- 二一、中野等。酒鐵並ニ癩瘡ノ「チノソール」療法 (雜誌六三) 四十四年
- 二二、土肥慶藏。峯正意。水銀石英燈ノ皮膚科ニ於ケル應用 (皮膚一二ノ三) (四十五年)
- 二三、柴山五郎作。血清及「ロツチン」療法 (日醫三) 四十五年
- 二四、帖佐彦四郎。「わへちん」療法。四十五年三月